

令和4年度 学校研究

思考力・判断力・表現力の 育成を目指した学習評価の工夫

～主体的・対話的で深い学びを通して～

研究仮設

○学習評価をもとに効果的な「学び合い」の授業

- ・主体的に学ぶ姿勢の育成
- ・思考力・判断力・表現力の向上

○学習評価を研究し、指導の質を向上

- ・ **学校全体の教育力の向上**

研究組織

研究を推進の中心となる 2 部会

A : 学力向上部会

生徒の学力向上, 教師の授業力向上

(研究主任、教務、GIGA担当、学習担当、道徳担当)

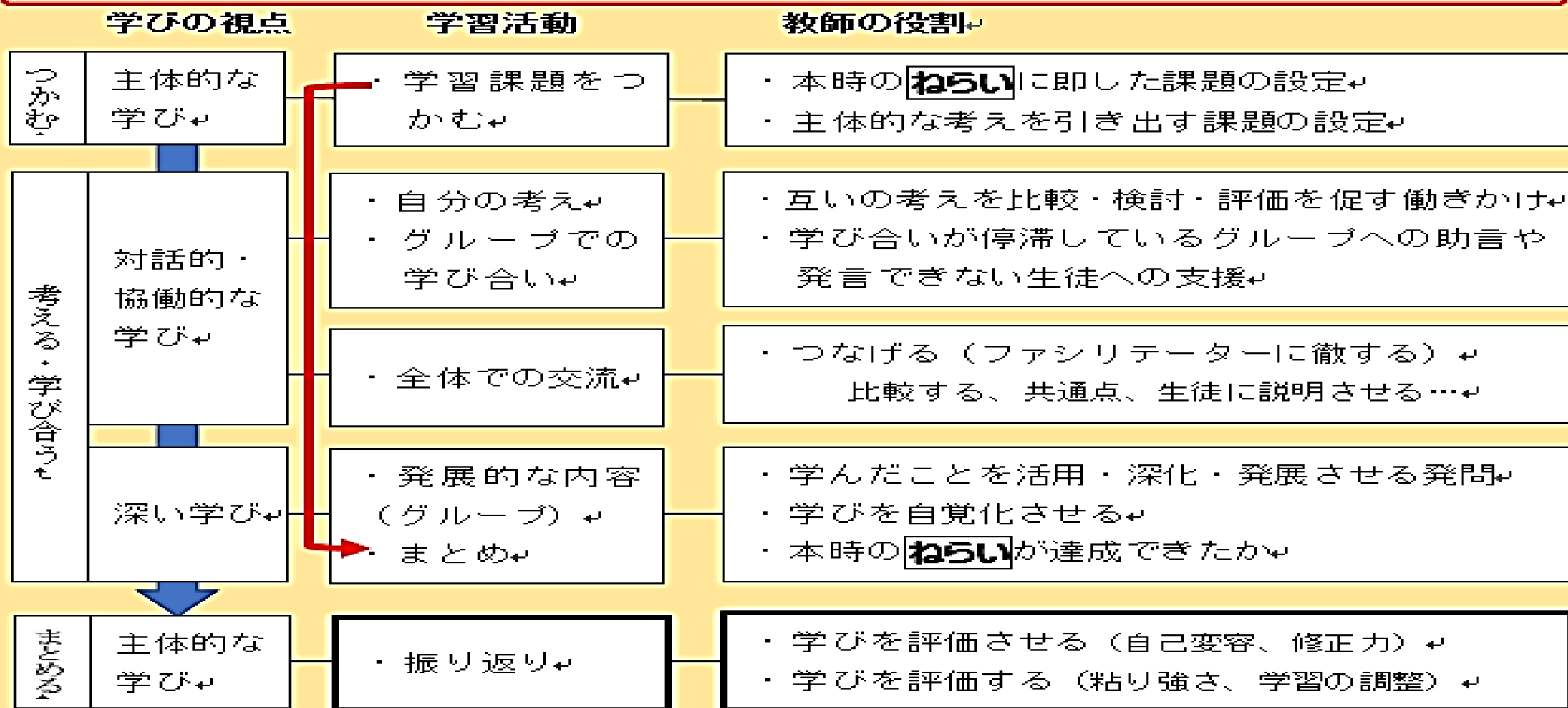
B : キャリアデザイン部会

生徒の目標設定と振り返りの機会の充実

(進路指導主事、キャリア教育担当、学活担当、
総合的な学習担当)

授業づくり

単元でつきたい力→本時のねらい・つきたい力→まとめ、振り返り→学習課題



授業づくり（課題）

教科のつけたい力（本時のねらい） → 評価 → まとめ → 課題

課題の内容

生徒の思考を促すもの（疑問形）
まとめの内容が答えとなるもの

自分と異なる価値観や多様な考え方に会うことで拡大，深化

〈協働的な学びの意義〉

- ① 「分からない子・納得できていない子」の底上げの手段
- ② 教材や課題に対する異質な意見や解釈を交流する相互思考

授業づくり（学び合い）グループ・ペアで

- 活動の目的や視点を示す → 思考するための「材料」、何に着眼させて考えさせるのかを明確にする

考えを照らし合わせる
分類や比較をさせる

考えを揺さぶる
矛盾・対立を生む

関連付けさせる
葛藤を生む
多面的に見させる

- 生徒の見取り → 学び合いが停滞しているグループへの助言や発言できない生徒への支援

⑤終末

- 「まとめ」「振り返り」の中で、生徒が自身の変容を自覚できるようにする。

視点

書き出し

キーワード

教師の居方（立ち振る舞いのこと）

(1) 参加できない子どもがいたら、最初にその子のところに行く。

「〇〇さん、何か困ることある？」と訊く。「これがわからない」といった場合、先生が全部説明するのをやめる。「それは、前の子に訊いてごらん」と仲間につなげる。

(2) 先生！先生！という子どもも仲間につなげる。

(3) 子どもによっては、先生が引き受ける必要がある。

(4) 教師が上手につなぐことによって、人間関係も向上するし、学力もつく。

(5) グループ活動が始まるときに、最初は教師は全体を見ていて動かない。

(6) 最初から、ぐるぐる回らないで、わからないところに行く。どのグループも均等に回るのは、グループ活動の終わりの方ではあっても、最初ではありえない。

教師の姿勢

「きく」

- すべての子どもの発言を聴く。
- 一人一人の表情、変化を受け止め、つぶやきに耳を傾ける。
- 参加できない子どもがいたら、最初にその子のところに行く。「〇〇さん、何か困ることある？」と訊く。「これがわからない」と言った場合、先生が全部説明せず、「それは前の子に訊いてごらん」と仲間につなげる。

教師の姿勢

「つなぐ」

- 教材とモノをつなぐ。
- ある知識と別の知識をつなぐ。
- ある子と別の子をつなぐ。(グループの中で関わり合う関係をつくる)

「先生！先生！」という子どもも仲間につなげる。

- ◇子どもによっては、先生が引き受ける必要がある。
教師が上手につなぐことによって、人間関係が向上し、学力も向上する。

教師の姿勢

「もどす」

- つぶやきを捨てることで横道にそれて元に「もどす」。
 - テキストに「もどす」。
 - 個人に「もどす」。
- ◇子どものつまずきによっては、授業の最初に戻ったり、前の授業に引き戻して内容を確認する。一人の発言をみんなで共有するために、基本的な事柄に戻ることもある。
- ◇「もどす」行為は、**もっともっと考えたいということ。**